

▶「食育実践講座」でヒノヒカリを刈って天日に干す。



さわはた・とおる

1961(昭和36)年、熊本県西合志町(現・合志市)生まれ。福岡県、東京を経て、'94(平成6)年から水俣市久木野ふるさとセンター愛林館館長。熊本大学講師、自由飲酒党総裁。著書に『森と棚田で考えた』など。

水俣の街から車で二十分、廃線になったJR山野線久木野駅跡地に、水俣市久木野ふるさとセンター愛林館がある。開館以来十五年、館長を務めているのは、全国公募で選ばれた沢畑亨リポーター。

「もともと山好きで、学生時代は年間百日ほど山に入っていました。山に行くたび、麓の村に元気がなくなっていくのが気になって」。沢畑さんは大学で林学を専攻。百貨店やコンサルタント会社を経て、「自分の手で村おこしをしたい」と館長に応募し、この地に移り住んだ。水俣はかつて、公害でその名を知られたが、川を遡った山村・久木野には先祖から受け継いだ豊かな自然とのどかな暮らしがあった。

それが、「人間が目先の利益や便利さを追求するようになってから、この暮らしも変わった」と沢畑さんは言う。代々伝えられた手仕事は廃れ、山林や田畑は荒れ、若者は街へ出ていった。

「久木野に多くの人を呼びたい」と、沢畑さんは就任直後から地元の人と数々のイベントを企画。ふだんのおかずを持ち寄る「家庭料理大集合!」や、二千本の松明で水を張った棚田を照らす「棚田のあかり」、ボランティアの力を結集した「働くアウトドア」では、不知火海に注ぐ川の水源の森を育て、「HELP! 田助手」で先人が築いた石垣積み棚田の手入れを实践。ユニークかつ多彩なイベン

日本列島
くらしのたより

山の暮らしを守りたい
沢畑 亨リポーター
～熊本県水俣市



「日本列島くらしのたより」
ラジオ第1

週～週 午後11:22～11:30

*沢畑さんは12月1日が出演。

雑草を食べるヤギは大切な働き手



◀▼近所の農家でこんにやく芋を掘り、こんにやくを作る。



10/10・11開催

愛林館
主催

棚田食育士養成
食育実践講座の

ひとコマ



▲愛林館



▲地元の食材を使った里山料理に挑戦。

トに、今では県の内外から多くの人がここを訪れるようになった。

「山の時間は何十年、何百年という長いスパンで流れていく。今どきの『簡単・便利』は似合いません。先人が苦勞して守ってきた棚田や森の尊さを、山仕事の体験を通して実感してほしいんです」

そして、たっぷり汗をかいた後、「みんなで飲む焼酎は最高!」とも。「山には金では買えないものがたくさんあることを日々感じます。ここは山の暮らしをまるごと楽しめる自慢のふるさとですよ」。

撮影・文／岩坂優子

※愛林館の商品のプレゼントは12月6ページ、イベントの紹介は129ページ参照。